

# 時代が必要としている 働く人の協同組合 ワーカーズ・コレクティブ

## 第4回埼玉ワーカーズフォーラム2016 志波早苗さん講演会報告

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会が2年に一度開催するワーカーズフォーラム。今回は生活に困難を抱える人などからの相談事業事務局を10年程続けてこられた志波早苗さんに、協同組合の意義について講演していただきました。

### 若者が協同を学んで社会的自立へ向かう

生活サポート生協・東京\*では、ワーカーズ・コレクティブなどに若者のインターンシップの協力をお願いしてきました。若者の生きる力が弱まり、協同の力を学ぶことが必要だと感じたからです。生き生きとした地域共同体が子供を育てるように、ワーカーズでの体験は若者の人生を豊かにします。

生活サポート生協・東京は多重債務者が社会的問題になった2004年に、生活クラブ生協東京・パルシステム連合会・司法書士が連携して多重債務者の相談を受ける組織として設立されました。現在生活全般の相談を受け付け、相談者はパルシステムの組合員が70%、一般が30%です。相談内容は、生活困窮・心の病など、困難な社会状況のセンサーとなっています。

### 大きな協同組合と小さな協同組合の役割

協同組合は「普通の人たちがお金を出し合い、力を出し合って、自分達がやりたいことをかなえられる仕組み」であり、そこに共感し、つながる人と人との集合体です。そこではマイナスの要素があっても仲間同士でマイナスをシェアし、プラスに変える力を持っています。

今大きな協同組合がたくわえた資源を提供し、組合員一人ひとりが主体的に関わらねば運営できない小さな協同組合との連携が求められています。あなたまかせの人が多くなか、自分達で物事を考え、行動し、地域に必要な仕事を自ら行っていくワーカーズ・コレクティブを時代が必要としています。

社会が不平等だからこそ、人と人をつなげ、エンパワメント（力を付けていく）し、人の成長を促す教育的機能を内在する小さな協同組合がたくさんできることは、世の中を変える大きな力になっていきます。

\*生活サポート生協・東京は2017年1月から「一般社団法人くらしサポート・ウィズ」として活動

### 志波早苗さん

2009年から生活サポート生協・東京の事務局として相談事業に携わる。協同組合の、要求型ではなく自分たちで問題を解決しようとする「しくみ」を評価。



### これからの連合会

ワーカーズ・コレクティブの仕事は、人を幸せにする仕事。事業を継続させることで、社会的弱者の包摂・地域の再生に欠かせないものとなる。

それぞれのワーカーズ・コレクティブには設立の原点に、地域や社会のためのモノやサービスを提供するという基本があります。私たちが事業を継続し社会的責任を果たすことで、共助社会を充実させていくことができるのです。連合会は会員ワーカーズ・コレクティブの力となり、社会的広がりにも努め、未来に向かって運動を進めていかねばなりません。

世界の上位8人の総資産合計が36億人の資産合計に匹敵するとの報道に、格差と言うこともはばかれるほどに膨れ上がり歪んだ資本主義を見る思いです。また民主主義社会とはいえ、一方的な情報と威勢のいい言葉に簡単に納得してしまう人々が世界中に充満しています。社会の暗い部分は「見ない、見せない、見えない」状況が作り出されています。

この様な不安な時代だからこそ、自ら考え行動し、分かち合い助け合うワーカーズ・コレクティブという道具を使い、勇気をもって進みたいと思います。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会会長  
井瀧佐智子